

(3) スイカ
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名						注意事項
				うどんこ病	疫病	褐腐敗病	菌核病	炭疽病	つる枯病	
アフエットフロアブル	ベンチレラト	アミト	7	◎			◎	◎		
アミスターオプティフロアブル	アゾキシストロビン・TPN	混合剤	11・M05	◎		◎	◎	◎		
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	ストロベリソ	11					◎	◎	高温多湿条件下、また、浸達性展着剤及び液肥との混用は避ける。
アントラコール顆粒水和剤	プロピノ	有機硫黄	M03					◎	◎	
イオウフロアブル	硫黄	無機殺菌	M02	◎						
オキシラン水和剤	キャブタン・有機銅	混合剤	M04・M01					◎	◎	
オーソサイド水和剤80	キャブタン	その他	M04					◎	◎	◎
カーゼートPZ水和剤	シモキサニル・マンゼブ	混合剤	27・M03			◎			◎	
カスミンボルドー カッパーシン水和剤	カスカマイシン・塩基性塩化銅	混合剤	24・M01	◎						
ガツテン乳剤	フルチアニル	その他	U13	◎						
カーニバル水和剤	ジメトモルフ・TPN	混合剤	40・M05						◎	
カンタスドライフロアブル	ホスカリト	アミト	7				◎			
カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤	ベンチアハカリカルブイソプロピル・マンゼブ	混合剤	40・M03			◎				
キノンドーフロアブル	有機銅	有機銅	M01					◎		
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル	混合剤	10・1					◎		
サンヨール	DBEDC	有機銅	M01	◎						高温時の散布は葉害の恐れがあるので避ける。
シグナムWDG	ビラクロストロビン・ホスカリト	混合剤	11・7	◎		◎	◎	◎	◎	
ジーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・無水硫酸銅	混合剤	NC・M01	野						野：【野菜類登録】幼苗期、高温時の散布は避ける。
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	有機硫黄	M03		◎			◎	◎	
ショウチノスケフロアブル	フルチアニル・マニピリム	混合剤	U13・9	◎						
スクレアフロアブル	マンデストロビン	ストロベリソ	11				◎	◎	◎	
スコア水和剤10	ジフェノコナゾール	SBI	3					◎	◎	
ストロビーフロアブル	クレシムメチル	ストロベリソ	11	◎				◎	◎	浸達性展着剤との混用は避ける。
スミブレンド水和剤	ジエトフェンカルブ・プロシミトソ	混合剤	10・2				◎		◎	
スミレックス水和剤	プロシミトソ	ジカルボキシミト	2				◎		◎	
セイビアーフロアブル20	フルジギソニル	その他	12				◎	◎		
ダコニール1000	TPN	その他	M05					◎	◎	
ダコニール粉剤	TPN	その他	M05					◎		
タチガレファイト液剤	ヒトロキシイキサザール	その他	32							◎
タチガレン液剤	ヒトロキシイキサザール	その他	32							◎

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名							注意事項
				うどんこ病	疫病	褐色腐敗病	菌核病	炭疽病	つる枯病	苗立枯病	
テーク水和剤	シモナゾール・マンゼブ	混合剤	3・M03	◎				◎	◎		
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	ベンゾイミダゾール	1				◎	◎			
トップジンMペースト	チオファネートメチル	ベンゾイミダゾール	1						◎		
トリフミン水和剤	トリフルミゾール	SBI	3	◎							
ニマイバー水和剤	ジエトフェンカルブ・ヘノミル	混合剤	10・1	◎			◎	◎	◎		
バシタック水和剤75	メブロニル	アミト	7							◎	
パルミノ	キノキサリン系	その他	M10	◎							
パレード20フロアブル	ピラジフルミト	その他	7	◎			◎		◎		
パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルミゾール	混合剤	U06・3	◎							
ピカットフロアブル	ベンチピラト・メバニピリム	混合剤	7・9	◎					◎		
ピクシオDF	フェニピラサミン	SBI	17				◎				
ピシロックフロアブル	ピカルブトキサ	その他	U17			◎					
プロポーズ顆粒水和剤	ベンチアハリカルブイソプロピル・TPN	混合剤	40・M05			◎		◎			
ファンベル顆粒水和剤	イミクタジソナルベシル酸塩・ヒリベソカルブ	混合剤	M07・11	◎			◎	◎	◎		
フェスティバルC水和剤	ジメトモルブ・銅	混合剤	40・M01			◎					
フルピカフロアブル	メバニピリム	アミルピリミジン	9	◎							
プロパティフロアブル	ピリオフェノン	その他	50	◎							
ベジセイバー	ベンチピラト・TPN	混合剤	7・M05	◎			◎	◎	◎		
ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアハリカルブイソプロピル	混合剤	27・40			◎					
ベルコートフロアブル	イミクタジソナルベシル酸塩	その他	M07	◎			◎	◎	◎		
ベンレート水和剤	ヘノミル	ベンゾイミダゾール	1				◎	◎	◎		
ペンコゼブ水和剤	マンゼブ	有機硫黄	M03			◎		◎	◎		
ペンコゼブフロアブル	マンゼブ	有機硫黄	M03					◎	◎		
フォリオゴールド	メタキシLM・TPN	混合剤	4・M05			◎		◎	◎		
ホライズンドライフロアブル	シモキサニル・ファミキサト	混合剤	27・11			◎					アルカリ性薬剤との混用を避ける。
ポリベリン水和剤	イミクタジソナルベシル酸塩・ポリオキシソ	混合剤	M07・19	◎				◎	◎		
マネージDF	イベンコナゾール	SBI	3	◎							
ライメイフロアブル	アミスルプロム	その他	21			◎					
ラミック顆粒水和剤	イミクタジソナルベシル酸塩・ピリオフェノン	混合剤	M07・50	◎			◎				
ラー水	マイクロタニル	SBI	3	◎							
ランマンフロアブル	シアゾファミト	その他	21			◎					
リドミル銅水和剤	塩基性塩化銅・メタキシLM	混合剤	M01・4			◎					
リドミルゴールドMZ	マンゼブ・メタキシLM	混合剤	M03・4			◎					
レーバスフロアブル	マジプロバミト	アミト	40			◎					

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名							注意事項
				うどんこ病	疫病	褐色腐敗病	菌核病	炭疽病	つる枯病	苗立枯病 R	
ロブラール水和剤	イプロジオン	ジカボキシイミド	2				◎		◎		
ICボルドー66D	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01					◎	◎		
〈 種子消毒 〉											
オーソサイド水和剤80	キャブタン	その他	M04						◎		
〈 く ん 煙 剤 〉											
スミレックスくん煙顆粒	プロシトロン	ジカボキシイミド	2				◎				
トリフミンジェット	トリフルジール	SBI	3	◎							
ロブラールくん煙剤	イプロジオン	ジカボキシイミド	2				◎				

注1) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

注2) ミノキサジナルベシル酸塩とミノキサジナルベシル酸塩は、成分が「ミノキサジン」として取り扱われるので、使用の際は有効成分の総使用回数を超えないように注意する。

(3) スイカ
ウ 土壤消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名											注 意 事 項
			ケ ラ	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ハ リ ガ ネ ム シ 類	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	疫 病	黒 点 根 腐 病	白 絹 糸 病	つ る 割 病	
ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	ダゾメット	I:8F									◎	◎	◎	
キ ル パ ー	カーバムトリウム塩	I:8F						◎				◎		
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	クロルピクリン	I:8B	◎	◎		◎	◎		◎		◎	◎	◎	
ク ロ ピ ク テ ー ブ	クロルピクリン	I:8B						◎				◎		
ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤	クロルピクリン	I:8B					◎		◎		◎	◎	◎	
ク ロ ピ ク 8 0	クロルピクリン	I:8B		◎		◎	◎				◎	◎		
ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	クロルピクリン	I:8B		◎		◎	◎				◎	◎		
ソ イ リ ー ン	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A					◎	◎		◎		◎		
ダ ブ ル ス ト ッ パ ー	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A					◎	◎				◎		
デ ィ ・ ト ラ ペ ッ ク ス 油 剤	メチルイソシアネート・D-D	I:8F・8A				◎						◎		
テ ロ 油 剤 D C 油 剤 D -	D-D	I:8A			◎		◎	◎						
ト ラ ペ ッ ク サ イ ド 油 剤	メチルイソシアネート	I:8F				◎						◎		
N C S	カーバム	I:8F						◎						

注) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

(3) スイカ
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバムトリウム塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	
			前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のねぎの収穫残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止	
			前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	

オ 病害虫防除法（スイカ）

（ア）うどんこ病 *Sphaerotheca fuliginea*

（防除のねらい）
（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（イ）疫 病 *Phytophthora drechsleri*

（防除のねらい）
キュウリの項参照。

（耕種的防除法）

降雨時には、つるがうね間の溝に落ちないように管理し、初期の病株や病葉は除去する。その他はキュウリの疫病に準ずる。

（ウ）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）
（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（エ）炭疽病 *Colletotrichum lagenarium*

（防除のねらい）

ハウス栽培では少ないが、露地栽培の雨期に激発する。果実に発病しないよう早期予防散布に努める。

（耕種的防除法）

- （1）露地では雨よけのトンネルをかける。
- （2）その他はキュウリの炭疽病を参照。

（オ）つる枯病 *Mycosphaerella melonis*

（防除のねらい）
キュウリの項参照。

（耕種的防除法）

- （1）定植は株元を高くし、株元に直接かん水せず、株元周辺を乾燥状態に保つ。
- （2）その他はキュウリのつる枯病に準ずる。

（カ）つる割病 *Fusarium oxysporum f.sp.niveum*

（防除のねらい）

土壌伝染と種子伝染をするので、この対策が必要となる。センチュウ被害を受けると、発生を助長するのでセンチュウ防除に努める。接木栽培を行うと発生を回避できる。

（耕種的防除法）

- （1）発病地では連作を避ける。
- （2）ユウガオ台に接木する。ユウガオつる割病発生地ではカボチャ、トウガン台を使用するとよい。
- （3）深植えをしないようにするとともに枯れ痛みをさせない。
- （4）石灰、完熟堆肥を施用する。

（キ）苗立枯病

（防除のねらい）
（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（ク）褐色腐敗病 *Phytophthora capsici*

（防除のねらい）

本病菌はウリ科やナス科作物も侵すので、多発ほ場では輪作体系を考慮する。

一般に排水不良や湛水した場合に発生が多いので、排水対策を第一に考える。薬剤防除は発生前から予防的に定期的実施する。特に風雨前の防除に心掛ける。

（耕種的防除法）

- （1）常発地では連作を避ける。（ウリ科，ナス科）
- （2）排水溝を整備し、高畦栽培とする。

(ケ) モザイク病

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(耕種的防除法)

- (1) ムギなどの間作，寒冷紗被覆やシルバー，銀色ストライプマルチ等の被覆を行う。
- (2) 育苗期には，有翅アブラムシの飛来侵入を防止する。

(コ) ミナミキイロアザミウマ・アザミウマ類

(防除のねらい)

キュウリのミナミキイロアザミウマの項参照。

スイカの被害は芯葉の萎縮など，草勢を著しく悪くするので，初期防除に重点を置く。

(耕種的防除法)

キュウリのミナミキイロアザミウマの項参照。

(サ) コナジラミ類

(防除のねらい)

被害は作物によって異なり，スイカでは主に吸汁害とすす病の発生による果実の汚れが問題となる。多発すると防除が困難なので，発生初期から防除する。

(シ) アブラムシ類・ワタアブラムシ

(防除のねらい)

(耕種的防除法) } キュウリの項参照

スイカではつる先に集中加害して生育を遅らせるので，防除は早めに実施する。

(ス) ウリノメイガ (ワタヘリクロノメイガ)

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(セ) ハスモンヨトウ

(防除のねらい)

多発年には被害がでる。孵化幼虫は集団で葉裏から表皮を残すように食害し，その後分散して1カ所に数匹で食害する。老齢幼虫になると防除が困難となるため，早期発見に努め，若齢期に防除する。

(ソ) オオタバコガ

(防除のねらい)

多発年には被害がでる。葉だけでなく，果実の表皮を食害して品質の低下をきたす。老齢幼虫になると防除が困難となるため，早期発見に努め，若齢期に防除する。

(タ) ウリハムシ

(防除のねらい)

直播きや少面積の露地栽培で被害を受けることがあるが，ハウスやトンネル栽培での実害はほとんどみられない。

(耕種的防除法)

キュウリの項参照。

(チ) ハモグリバエ類

(防除のねらい)

トマトのマメハモグリバエの項参照。

(ツ) ハダニ類

(防除のねらい)

トンネル，ハウス栽培で4月以降高温・乾燥の状態が続いた場合，急速に増殖する。生育後半密度が高くなってからの防除は効果不十分なので，早期発見，早期防除に努める。発生源対策として苗床の徹底防除と定植後の周辺の雑草防除も考える。

防除薬剤は感受性の低下が問題になっているので，薬剤の選定に留意する。

(耕種的防除法)

- (1) ハウス周辺の雑草を除去する。
- (2) ハウス栽培では終了後に蒸し込みをする。

(テ) ネコブセチュウ

(防除のねらい)

キュウリの項参照